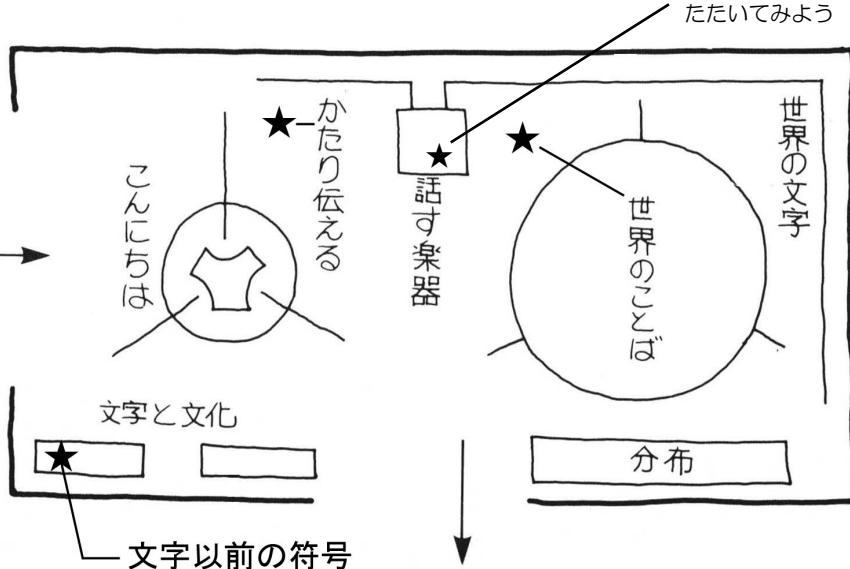


ほんかんだい しつ 本館第3室：ことばの世界——言語 げんご

“ことば”はヒトを他の生き物から区別する特徴のひとつです。人類は、数万年前から言語を使用していたと考えられています。お互いの意志を伝え合うために、音や声を発し、記号を用い、そしておよそ5,000年よりも前に文字を発明しました。言葉の使用は、抽象的思考を可能にし、また知識を次の世代に伝達し集積させていくのに重要でした。

この展示室では、言語の役割とその多様性を、民族資料とともに音声や映像で紹介しています。

★体験コーナー
ファン人の太鼓を
たたいてみよう



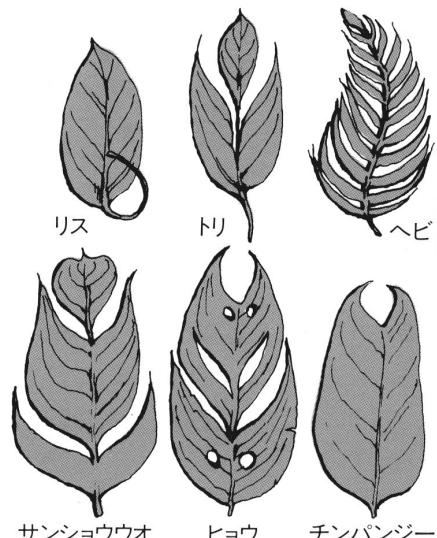
LANGUAGE

To communicate with each other, human beings use languages consisting of sounds, writings and symbols. This hall explains the role and diversity of languages.

ふごう 文字以前の符号—エコンビ

コンゴ民主共和国（旧ザイール）のイトウリの森で採集狩猟生活をする民族ムブティが、カサブルという植物の大きな葉でつくるエコンビと呼ばれる目印は、動物の種類や自分の属する集団をあらわします。

獲物を追うとき、根元を進行方向に向けて置いてゆくことによって、道に迷わず、仲間に行き先を伝えることができます。



たいこ 話す楽器：太鼓ことば

西アフリカから中部アフリカにかけての地域では、人間が話す言葉の特徴をなぞって、太鼓の音の高低、強弱、長短によりメッセージを伝える習慣があります。写真はカメルーンのファンの太鼓です。

マホガニー製のこの太鼓の音は数 km 先まで届き、森に働きに出かけている仲間を呼び戻したり、他の村へ何かを伝えたいときに用います。

熱帯雨林の森では狼煙をあげても煙は葉に遮られてしまいます。一方、太鼓の音は人間の声よりも遠くまで響くため、電話や無線のない時代、とても優れた通信手段でした。現在でも祭りや儀礼の場を中心に使用されています。

